

## 人生の決断

1カ月ほど前に義父が亡くなりました。大正8年生まれ、91年の生涯でした。亡くなる6年ほど前からは、ほぼ寝たきりの状態が続き、自宅で静かに息をひきとりました。義父の末娘である妻と結婚して30年。私と義父との関係も、ちょうど30年になります。晩年は特に孫思いの好好爺で、全部で7人いる孫たちと会うことを、大変楽しみにしていました。孫たちの成長を温かく見守り、いつも孫の様子を気遣っていました。

大正、昭和、平成という激動の時代を義父は生き抜きましたが、当然、太平洋戦争にも巻き込まれ、フィリピンで終戦を迎えました。栄養失調での復員後、義母と結婚し3人の娘を育て上げました。夫として、父として充実した人生であったと思います。

その義父が若いころ、胃のほとんどを摘出するという大病を患いました。そのことで自分の将来に不安を抱き、義父は最悪の場合を考えて、残された妻や子どもが生計を立てられるようにと考え、当時では珍しかった喫茶店を自宅で開業しました。今でいう脱サラや起業でしょうか。サラリーマンから自営業への転身です。家族思いの義父の、人生を賭けた覚悟の大決断であったと思います。そのために義父は、県外にある喫茶店まで修業に出かけ、準備にも万全を期しています。

ところで、決断には「守りの決断」と「攻めの決断」があります。厳しい危機的状況では「守り」ができなければ、そのあとの「攻め」はあり得ないと、どうしても「守り」を優先させます。これはすぐに目に見える効果が出ることで、全ての力が注ぎ込まれてしまいがちです。しかし、そればかりを続け「攻め」の決断にいつまでもストップをかけていると、せっかく内在していた「成長の種」が腐り、未来を創造するエネルギーが途絶えてしまいます。「攻めの決断」より「守りの決断」の方が、確実に手堅くリスクも少ないですが、守りの姿勢ばかりでは成長の限界があります。

人には、それぞれの人生の中で、大きな決断をしなければならない時が必ずやってきます。それが人生の転換点でもあり、ある意味では人生の醍醐味でもあります。その時は決断の覚悟が要ります。義父も自分の人生での「攻めの決断」を、勇気と緻密な計画と覚悟を持って下し、全力で家族を守ったのだと思います。そんな義父を心から尊敬し、出会えたことに感謝しています。

東高生の皆さんのそれぞれの人生において、下すべき決断が迫ってきた時には、「守りの決断」と「攻めの決断」をしっかりと戦略的に見極めて、悔いのない決断をしてください。そして、自分の人生をより豊かで実り多いものにしていただきたいと、校長として心から願っています。

平成23年7月28日

大垣東高等学校長 浅野 裕 司

